

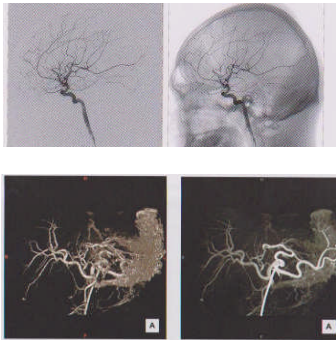
特集

最新トピックス① 血管撮影装置の更新

中央放射線室では平成22年9月に最新の血管撮影装置を更新いたしました。脳血管や心臓領域などのあらゆる血管系の診断、治療に対応しており、救急医療においてフルに活躍します。

▲血管撮影装置とは？

カテーテルと呼ばれる細い管を血管に入れて、目的とする血管まで進めていき、造影剤を注入すると血管が描出されます。これを利用して血管の病変や腫瘍に対しての診断や治療をおこないます。



3D画像の活用

▲新しくなった画像技術

FPDと呼ばれるX線検出器により高解像度の透視画像や撮影画像が得られます。高速回転により得られた画像から、数秒で3D画像を作成できるようになり、自由な方向から観察できます。また、CT画像のように軟部組織を含めたさまざまな組織や臓器の断面画像を得ることができます。放射線被ばく低減のための技術も組み込まれ患者・術者の保護にも配慮されています。

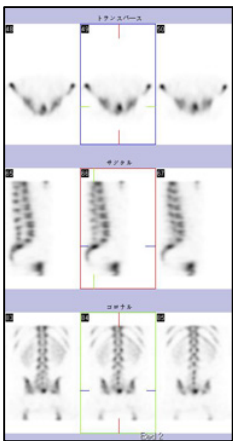


最新トピックス② 核医学装置の検査再開

昨年より突然の故障のため中止していた核医学検査は装置が一新され、平成22年8月より再開しました。患者様にはこの間、大変ご迷惑をおかけしました。あらたな表示機能を備えて新しくなった核医学装置について紹介をいたします。

●核医学検査とは？

核医学検査は、まずラジオアイソトープと呼ばれる、放射性医薬品を体内へ注射します。その放射性医薬品は、それぞれ決まった臓器へと集まっていき、体内から微量のガンマ線を発します。それを核医学検査室にある検出器（ガンマカメラ）で感知し、診断に必要な画像を作成します。



●新しくなった機能

CTやMRIは体内の形の変化（形態）を見つけるのに対して、核医学検査は主に臓器の動き具合（機能）を調べます。例えば脳の血流を評価するのに用いられていますが、今まで以上に分かりやすく表示する機能が加わりました。骨の異常を見つける検査は前後のみ撮影を行っていましたが、多方向からの撮影が可能になったことで見つけやすくなっています。

多彩な画像提供

